

アメリカ留学を経験して

情報文化学科 2年 浅間一元

私は8月20日から12月13日まで、約4か月間アメリカの **Northwest Missouri State University** に留学してきました。アメリカ留学に憧れていたのでも楽しみでしたが、異国で長期間滞在するということが不安もありました。留学中に様々なトラブルもありましたが、今思い返すとそれらもいい思い出であり、それらのおかげで自分も成長できたと思っています。この4か月間は私にとってかけがえのない時間でした。

留学準備を始めたのは春からでした。まず、パスポートを早めに作り、そして入国に必要な書類の申請、海外保険手続き、アメリカのビザ申請など、多くの書類を書き提出という作業が案外大変でした。その後、スーツケースを買い、必要な物を揃えました。私は準備を始めるのが遅かったため、アメリカで物に困ることも少なくありませんでした。早めの準備は大切です。

日本を発つ日、新幹線に乗った時は、正直留学に行くというより旅行に行く感覚でした。アメリカに行く実感が全くありませんでした。12時間の長いフライトを何とか乗り越え、空港に着いてアメリカ人を見た時やっとアメリカに来た実感が湧きました。それからバスに乗り **Northwest Missouri State University** に向かいました。夜に学校に着き、**Franken Hall** という寮に案内され、大学の学生や職員の方が寮にある洗濯機や自分の部屋の説明などしてくれましたが、その時は全然何を言っているのか分からなくて、自分の英語力の無さと、これからの生活に不安を感じました。私の留学は不安から始まりました。

授業が始まる前に、クラス分けのテストを行い、その結果私はAグループに選ばれました。Aグループは、日本人6人、韓国人2人、中国人3人、サウジアラビア人2人、ブラジル人1人というグローバルなクラスでした。第一回目の **Listening/Speaking** の授業で、サウジアラビア人の人とペアワークをした時、彼の英語が聞き取れず本当に悔しい思いをしました。今まで感じたことのない、授業についていけない焦りを強く感じました。この授業では自分の意見を話すワークや、一つのレクチャーを聞いて、ノートを取るとなどの練習をしました。週末には、**Activity Report** という、自分が参加した学校行事の説明と、感想などを書くレポートを課題として出されました。また、学期の最後にはスピーチをしなければならなくて、前期、後期の2回スピーチをしました。特に後期のスピーチの内容がジェンダー差別についてだったので、インタビューや、文献探しを基にスピーチ原稿を考え、クラスの皆や教授の前で発表するのが大変でした。ですがとてもいい経験になったと思います。

Grammar のクラスでは、文法をしっかり学びました。文法を英語で説明するということが最初は戸惑いましたが、時間が経つにつれ徐々にできるようになりました。私は

Grammar が一番得意だったので、毎回の授業が楽しみでした。Listening/Speaking と Grammar の先生は、Mrs. Hardee で、授業についていくのが辛かった最初の頃は、B group に移動させてほしいという相談も何度もしました。その度に、何度も励ましてくれて、宿題のやり方や、勉強の仕方などを嫌な顔一つせずに教えてくれました。今となっては、それもいい思い出であり、A グループの中でたくさん友達もできました。Mrs. Hardee には本当に感謝しています。

Reading のクラスでは、授業の進行度も早く、毎日課題が山のように出されました。Reading では、家族、ジェンダー、マスメディア、犯罪などをテーマとした読み物を読み、その要旨を答えるワーク、英語を英語で説明するワーク、異文化を学ぶグループワークなどを主に行いました。毎週末には、



Article Report という、新聞記事の一つを読み、その要約と、自分の文化と比較しながら自分の考えを書くレポートが出されました。最初は、課題に迫られる毎日が辛く、苦しいものでしたが、一か月ほど経つと、徐々にですが慣れていきました。この授業の担当は Mrs. K で、授業で発言するのが怖くてできない私を勇気づけたり、クラスメイトと話す機会を何回も作ってくれました。

正直、毎日ある Reading のクラスは、どの授業よりも難しく辛いものでしたが、クラスの韓国人の友達や中国人の友達と勉強を一緒にやり、お互いに励まし合いながら勉強をしていました。この授業のおかげで、難しい新聞や、読み物を読むスピードは以前より速くなったし、語彙力もあがりました。Mrs. K にも本当に感謝しています。また、定期的にある Field trip という ESL クラスの旅行は、私の楽しみでした。動物園、博物館、農場などに行くことで、様々なアメリカ文化に触れることができました。



火曜日と木曜日の 1 時間目には、American Culture の授業があり、インディアンや武器、音楽など幅広いジャンルの文化を学びました。私の中では、特に音楽の文化が印象強くて、jazz や country などのアメリカ音楽に興味を持つようになりました。

月曜日と水曜日の 1 時間目には Dr. Foot の TOEIC 対策の授業があり、Listening の

コツや素早く正確に問題に答えるという練習をしました。Dr. Foot は授業以外にも、カンザスシティーに買い物に行く時の引率や、寮で問題があった時に手助けをしてくれました。また、エボラ出血熱がアメリカで出た時も、私たちがパニックにならないよう、冷静な対応をしてくれました。

また、週に2回 Conversation partner の Tyrell とのミーティングも楽しかったです。彼はいつも、ジェンダー、政治、犯罪、将来の夢、日本の良い点などの色々なジャンルの問いを考えてきてくれて、話が尽きませんでした。Conversation partner の彼からもアメリカ文化や、アメリカで問題視されていることなどを学ぶことができました。また、彼も日本について興味があったので、日本の話もよくしました。

月日が経つと毎日の授業も楽しくなり、やりがいのあるものでしたが、その頃から学生が運営するイベントも楽しみになりました。大学では、毎日何かしらのイベントが開催されています。例えば、学生寮の近くの建物で映画を無料でみるのできるイベントや、1 \$ でご飯が食べられるイベント、アメリカンフットボールの試合、お化け屋敷、有名なアーティストを呼んでコンサートを行ったりもしていました。私はイベントが大好きだったので、できる限り参加していました。そこでできた友達もいます。椅子に座って勉強することも大切ですが、自分の部屋の外に出て、知らない人と話すことも大切だと学びました。

多くのイベントに参加して多くの人と話すうちに、様々な国の人と話したいという好奇心や、異文化への興味が増しました。アメリカ文化はもちろん、クラスメイトの文化にも興味も持ち、中国の食事時のマナー、サウジアラビアの挨拶やブラジルの食文化なども、放課後や授業の休憩時間に学ぶようになりました。この頃から彼らとも仲よくなり、授業外



でも頻繁に遊び、友達の誕生日パーティーにも参加してもらいました。留学最終日には、中国人の Jing がアパートに招いてくれて、中国の伝統料理を作ってくれました。その後プレゼントも貰い、best friend と言われた時は泣いてしまいました。日本に帰ってきた今でも、別れが辛いので Jing や他の友達とも連絡をとっています。私の英語力があがったのは授業のおかげでもあります、彼らのおかげでもあると、今になって改めて思います。

秋になると、Halloween や Thanks giving break があり、留学がさらに楽しいものになりました。Halloween では、Activity Coordinator の Belinda が NUIS の生徒を Downtown に連れて行ってきて、衣装をしている子どもたちや、子どもたちのため

に開放してあるお店に連れて行ってくれました。アメリカの Halloween は想像以上に楽しく、スケールが大きかったです。Thanks giving break では、その期間、寮が閉まるため、Mrs. Throm さんの家にホームステイをしました。ホームステイ先の人たちはとてもいい人で、家に飾るクリスマスツリー切りに隣町まで連れて行ってくれたり、ショッピングモールでお土産探しを手伝ってくれたり、教会のミサに連れて行ってきてお祈りの仕方を教えてくれたり、本当の家族のように接してくれました。Thanks giving day (収穫祭) の日は、彼女の親戚が家に集まり、一緒にご馳走をたべました。七面鳥や、クランベリーソース、パンプキンパイなど、伝統料理を作ってくれました。食事中に、日本の文化や、家族について話しました。その後に、アメリカで有名なスプーンというゲームや、モスキートというピンポンをしました。彼女の家では毎年 Thanks giving day の時に皆でゲームをするらしく、皆とても強かったです。ピンポンをしたことでお爺さんと仲良くなり、お爺さんの昔ばなしなども聞きました。Thanks giving では、彼らからアメリカの様々な文化を学びました。そして家族の大切さにも改めて気づきました。Thanks giving break の後も一回家に招いてくれて、一緒にご飯を食べ、ゲームをしました。そして、クリスマスプレゼントをわざわざ用意してくれていて、貰った時は嬉しさでいっぱいでした。

Thanks giving break は私にとってかけがえのない、いい思い出です。

アメリカ留学を経験して、アメリカやその他の国々の文化を学びました。このことで自分の中の価値観や固定概念が変わりました。もちろん異文化の衝突もありましたが、それを乗り越えたことで、“違う”ということの面白さを学びました。また、以前は人と話すことが苦手で内気でしたが、アメリカ留学を通して人とコミュニケーションをとることの楽しさを実感しました。最初は英語が話せない、聞けない、コミュニケーションとれないといった不安だらけでしたが、話したい、伝えたいという意思を持って話すことで案外伝わることに気づきました。言葉よりも、相手に伝えたいという意思が大切なのかもしれません。この4か月は、語学や異文化を学ぶためのものだと思っていましたが、様々なものを学ぶことで、自分の価値観や偏見など、自分自身を見つめなおす4か月でもありました。このチャンスを与えてくれた親、先生、留学を支えてくれた友達に感謝したいと思います。留学で学んだことを生かすために、まず、様々なことに挑戦してみたいと思います。



